

第 30 回 日本環境感染学会 抄録

カテゴリー番号：31 抗菌薬適正使用

病棟薬剤業務を通じた抗菌薬適正使用の取組み

兵庫県立加古川医療センター 薬剤部

坂井 良美、前原 大輔、土井本 和久、垣尾 尚美、岸本 静佳、松本 敏明

【はじめに】

当院では、2013 年 10 月から、カルバペネム系抗菌薬使用中の入院患者を病棟薬剤師が全例把握し、薬剤選択や投与期間等の妥当性を評価し、薬剤師主導で適正使用を推進する取組みを行っている。今回、この取組みの効果について検討したので報告する。

【方法】

カルバペネム系抗菌薬のうち最も使用頻度が高い MEPM を使用した患者を対象として、2012 年 10 月から 2013 年 6 月を非介入群、2013 年 10 月から 2014 年 6 月を介入群とした。介入前後で、使用件数とグラム陰性菌治療抗菌薬使用患者数に占める割合、AUD(DDDs/1000bed-days)、起因菌判明後に de-escalation を行っていなかった症例と長期使用例(15 日以上)の使用全例に占める割合について比較した。

【結果】

使用件数は非介入群が 189 件、介入群が 129 件であり、グラム陰性菌治療抗菌薬使用患者数に占める割合と AUD、起因菌判明したにも関わらず de-escalation を行っていなかった症例の割合は介入群で減少していた。一方、長期使用例の割合については差はなかった。

【考察】

病棟薬剤師による抗菌薬適正使用の取組みは、MEPM の使用量減少や de-escalation の推進につながる可能性が示唆された。今後もこの取組みを継続し、さらなる抗菌薬の適正使用に努めていきたい。